

釣川水系河川整備基本方針

平成23年3月

福岡県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域および河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	5
2. 河川の整備の基本となるべき事項	7
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	7
(2) 主要地点における計画高水流量に関する事項	7
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	8
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に 関する事項	8

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

1) 流域の概要

釣川は、宗像市^{よしどめ}吉留の丘陵地である倉久山^{くらひさやま}（223.9m）を源となし、高瀬川^{たかせ}・朝町川^{あさまち}・八並川^{やつなみ}・大井川^{おおい}・山田川^{やまだ}・横山川^{よこやま}・四十里川^{しじゅうさと}・樽見川^{たるみ}・阿久住川^{あくずみ}・吉田川^{よしだ}の10支川を集め宗像市の中心部を流下し、宗像市神湊^{こうのみなと}において玄界灘に注ぐ、流域面積101.5km²、幹線流路延長16.3kmの2級河川である。

本流域のほぼ中心を東西に走る国道3号及びJR鹿児島本線は、宗像市と大都市圏とを結ぶ幹線となっているとともに、都市化の軸となっている。

釣川流域を占める宗像市の歴史は、縄文・弥生時代まで遡ることができ、現在でも多くの古墳が残存している。また、古代から中世にかけては大陸との交流があり、宗像大社等の歴史遺産も豊富である。さらに、大正から昭和にかけては、農業を中心に推移してきたが、昭和30年代に入り高度経済成長期を迎えると、昭和36年には鹿児島本線が電化され、本地区が福岡、北九州両都市への通勤圏として注目されるようになり、日の里地区や自由ヶ丘地区で大規模な住宅開発が始まった。このように、歴史、文化、都市が混在し、さらには、さつき松原に代表される浜辺や都市を取り囲む^{よつが}四塚連山^{れんざん}等自然環境も豊かな流域である。

2) 地形・地質

流域は、筑紫山地のほぼ中央から北西方向に連なる三郡山地^{さんぐん}の北端に位置し、その地形は、北側～南西側にかけて湯川山^{ゆかわやま}（471.0m）、孔大寺山^{こうだいしやま}（499.0m）、城山^{じょうやま}（369.3m）、戸田山^{とだやま}（267.4m）、新立山^{しんたてやま}（325.7m）、磯部山^{いそべやま}（232.4m）、許斐山^{このみやま}（271.0m）等の丘陵に囲まれた盆地をなしており、その丘陵地が緩やかな起伏をみせ、河川沿いは肥沃な沖積低地を形成している。

流域の地質は、山地部が関門層郡^{かんもんそうぐん}、糸島花崗閃緑岩^{いとしまかこうせんりよくがん}及び砂岩から成り、平野部は沖積層^{ちゅうせきそう}から成る。

福岡県全域に広がる糸島花崗閃緑岩^{いとしまかこうせんりよくがん}は白亜紀後期（約1億年前）に地下深部で形成され、地殻変動で地表に露出したものである。その後、新生代古第三紀（約6500～2400万年前）に地殻の沈降によって、海産貝類や植物化石、石炭などを含む沖積層が形成された。

3) 気候

流域の気候は、日本海気候区に属し、過去 10 年間の年平均気温は約 16℃である。また、過去 10 年間の年平均降水量は約 1,500mm であった。

4) 土地利用

流域の土地利用状況は、流域のほぼ全域を占める宗像市の面積は 119.65 km² で、その構成比は山林・原野約 38%、田畑約 25%、宅地約 13%、雑種地約 6%、その他約 18%である。また、近年においては、水田および畑としての利用が減少し、宅地や造成地としての利用が増加している。

5) 人口・産業経済

宗像市の人口は、平成 16 年で 92,527 人であり、年々人口が増加傾向にある。また、宗像市の産業経済活動は、第一次産業、第二次産業ともに就業人口は若干減少傾向となっている。また現在では、大規模住宅団地の造成に伴い、第三次産業就業人口が増加している。

6) 公園・観光施設

流域の中・上流域には、城山、許斐山、釣川等の良好な自然景観、みろく山さんの石仏せきぶつ、山田やまだの地蔵尊じぞうそん、八所宮はつしよぐうのイチイガシ、平山天満宮ひらやまてんまんぐうの大樟おおくす等の文化財を有し、観光資源は多く点在している。また、『宗像市総合公園むなかたしそうごうこうえん（宗像ユリックス）』、『ふれあいの森』、『正助しょうすけふるさと村』等は観光・レクリエーション基地として活用されている。

下流域には宗像大社を始め、鎮国寺ちんこくじ、さつき松原等の著名な観光資源があり、これらを訪れる観光客は年間 300 万人にも達している。特に、河口部の白砂青松のさつき松原海岸は玄海国定公園に指定されており、多くの観光客で賑わっている。

7) 史跡・文化財

流域の史跡・文化財は、光岡八幡宮みつおかはちまんぐう・横山・平山天満宮の大樟、吉武よしまの槨はつしよじんじや、八所神社はつしよじんじやの社叢しゃそう、宗像大社・鎮国寺内の建造物、彫刻等、大陸文化の影響を受けた国・県指定の文化財が多く分布している。

8) 祭り・イベント

流域の祭り、イベントは、宗像大社・鎮国寺・増福院・八所宮等でさまざまな祭や催し物等が季節を通じて行われており、九州一円から観光客が訪れている。

9) 関連計画

福岡県の上位計画として、「ふくおか新世紀計画」、「環境管理基本計画」などがある。また、宗像市では釣川の環境を保全するために「釣川グリーンネットプロジェクト」が重点施策として位置づけられている。

10) 自然環境

流域の自然環境は、指定区間より上流域の山地部はスギ・ヒノキの植林で覆われ、その中に在来の自然が残るヤブコウジースタジイ群落、ミミズバイースタジイ群落が見られる。中流域～下流域の山麓部は果樹園、平地部は水田・畑地等の耕作地が広がり、イネ科草本群落が優占している。特に宗像大社、鎮国寺周辺には、シイ・カシ^{ほうがりん}萌芽林を中心とした社寺林がある。

釣川上流域は、取水堰による湛水域が連続しており、湛水区間の切れ目にツルヨシ群落、クサヨシ群落等が生育している。また、河岸は急傾斜のコンクリートブロック護岸となっている。代表的な生物として、鳥類では河道内や水際で採餌するコサギ、ハクセキレイ等が生息しており、魚類では止水環境を好むギンブナ、オイカワ等が多く生息している。

釣川中流域は、取水堰による湛水域が連続しており、河道内の堆積地には緩やかな流れに多いヨシ群落、マコモ群落等が生育している。河岸は緩傾斜の法面となっており、セイタカアワダチソウ群落、イネ科草本群落等が生育している。代表的な生物として、哺乳類ではススキ群落に依存するカヤネズミ（福岡県 RDB：絶滅危惧 CR～VU）が生息しており、鳥類では湛水域でカルガモが、周辺の耕作地でチュウサギ（環境省 RDB：準絶滅危惧 (NT)，福岡県 RDB：準絶滅危惧 (NT)）等が生息している。魚類では上流域と同様に、止水環境を好むギンブナ、オイカワやバラタナゴ属の一種等が生息している。

釣川下流域は、汽水域で干満の影響が小さく常時湛水しているため河道内に植生は見られないが、堤防法面には河口付近でクロマツやハマゴウ等の小群落が生育している。代表的な生物として、鳥類では干潟で採餌するシロチドリや、汽水域で魚類を採

餌するミサゴ（環境省 RDB：準絶滅危惧 (NT)、福岡県 RDB：準絶滅危惧 (NT))、ウミネコ等が生息している。魚類では汽水魚のスズキ、ボラ、マハゼ等が多く生息している。

11) 水質

釣川本川の水質環境基準は、全域 B 類型（BOD75%値 3.0mg/l 以下）に指定されている。県では砂山橋（1/690）、多礼橋（3/760）の 2 地点（平成 16 年度までは野添橋（8/640）を含めて 3 地点）で水質測定を実施している。近年の下水道整備により、平成 15 年度における BOD75%値はいずれの地点とも環境基準値を満足している。

12) 過去の洪水被害と治水事業の沿革

釣川流域においては、過去幾度となく台風や大雨によって災害に見舞われてきた。主な被災としては、平成 3 年 9 月、平成 11 年 6 月等がある。

釣川では昭和 19 年 9 月災害を契機に昭和 26 年から中小河川改修事業として、河道改修に着手し、平成 10 年から広域基幹河川改修事業を実施している。

13) 利水の概要

釣川の河川水は、古くから農業用水として利用されてきた。

また、多礼ダム、大井ダム、吉田ダムの 3 ダムは、上水道用水として利用されている。その他、流域内全体には大小の池沼が多数分布している。

宗像市では、平成 6 年の渇水により、多礼ダム、大井ダム、吉田ダムの貯水量が減少し、20 日間程度の断水を経験している。

14) 河川空間の利用状況

釣川水系の河道には広い高水敷は無いが、堤防の天端などで散策や憩いの場として利用されている。

上流域は、掘り込みによる単断面河道となっている。河道内には、かんがい用水を取水する堰が数多くあるため、湛水区間が連続しており、釣りに利用されている。

中流域から下流域にかけては、築堤による複断面河道となっている。特に中流域では、赤間大橋付近を中心に「釣川ルネッサンス計画」による桜つつみ公園やポケットパーク等が整備され、子供達の水遊びや散策等に利用されている。

また、河口域には、さつき松原の良好な海浜景観が広がり、休日には釣り客や家族連れの利用がある。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

釣川は、宗像市の東端に源流を発し、西端の玄界灘に注ぐ河川であり、宗像市域の自然から生活までの全般を潤している生命線である。また、宗像市の重要な水道水源であるとともに、農業用水としても大切な役割を果たしている。

釣川の整備においては、河川整備の現状、水害発生状況、河川利用の現状、流域開発の状況、河川環境の状況並びに森林の持つ水源涵養機能等を考慮し、かつ、福岡県の上位計画として、「ふくおか新世紀計画」、「環境管理基本計画」、宗像市が策定した「釣川グリーンネットプロジェクト」等と整合を図り、関連地域の社会、経済情勢の発展に係わる諸計画との調整を行いながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全・利用を目指す。

1) 河川の洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

釣川は、概ね50年に1回程度の確率で発生する降雨による規模の洪水を安全に流下させることができる整備を目指す。

洪水及び高潮による災害の発生の防止または軽減に関しては、沿川地域を洪水から防御するため、釣川の自然環境や河川の利用等に配慮しながら、洪水調節施設により洪水を調節したうえで、堤防の嵩上げ、河道の掘削、堰の改築などにより河積を増大させ、護岸等を設置し、計画規模の洪水の安全な流下を図るとともに、台風による高潮にも対処する。

整備途上における河川管理施設能力以上の洪水に対しては、ハザードマップの作成を支援するとともに雨量及び水位等の水防活動及び警戒避難に必要な情報の伝達体制を充実するなど、関係機関等と連携を強化する。さらに、都市化が進む当該流域においては、土地利用計画や都市計画との調整など関係機関等と協力して、流出抑制を推進する。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、上水道水の供給等、河川への依存度が高い状況に鑑み、今後とも流水の利用の適正化や合理化が図られるよう関係機関との調整に努めるとともに、関係機関と連携して、流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保に努める。

また、渇水等の被害を最小限に抑えるために、情報提供、情報伝達体制の強化を関

係機関及び水利使用者等と連携して推進する。

3) 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を図りながら、動植物の多様な生息・生育環境及び都市景観と調和した水辺景観の保全に努める。また、水際部や河床に変化を持たせ、多様な生物の生息・生育に配慮した河川整備に努める。

さらに、釣川及び山田川は市街地における貴重な水辺空間であり、沿川には商業施設や住宅地等と連続した桜つつみ公園や河川公園等のレクリエーション空間が存在することから、水辺に近づきやすく、環境学習の場として利用され、人々から親しまれる水辺空間の創出に努める。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

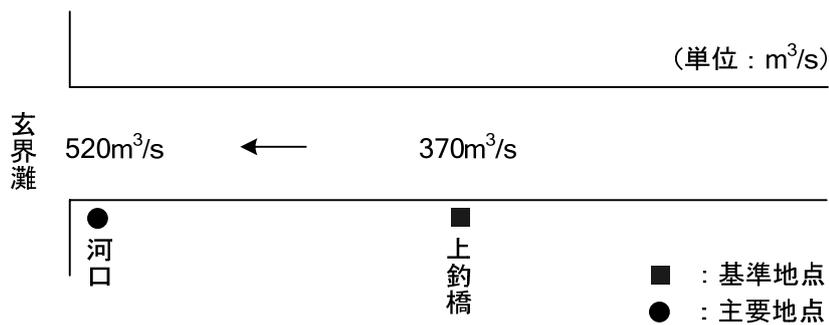
釣川の基本高水のピーク流量は、基準地点上釣橋において $420\text{m}^3/\text{s}$ とする。
河道への配分流量は、洪水調節施設により $50\text{m}^3/\text{s}$ 調節し、 $370\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表（単位： m^3/s ）

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
釣川	上釣橋	420	50	370

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

釣川における計画高水流量は、基準地点上釣橋において $370\text{m}^3/\text{s}$ とする。



釣川計画高水流量図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

釣川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表に示すとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T. P. m)	川 幅 (m)	摘 要
釣川	上釣橋	5.85	5.67	54.5	基準地点
	河口	0.00	2.00	122.8	主要地点

(注) T.P : 東京湾中等潮位

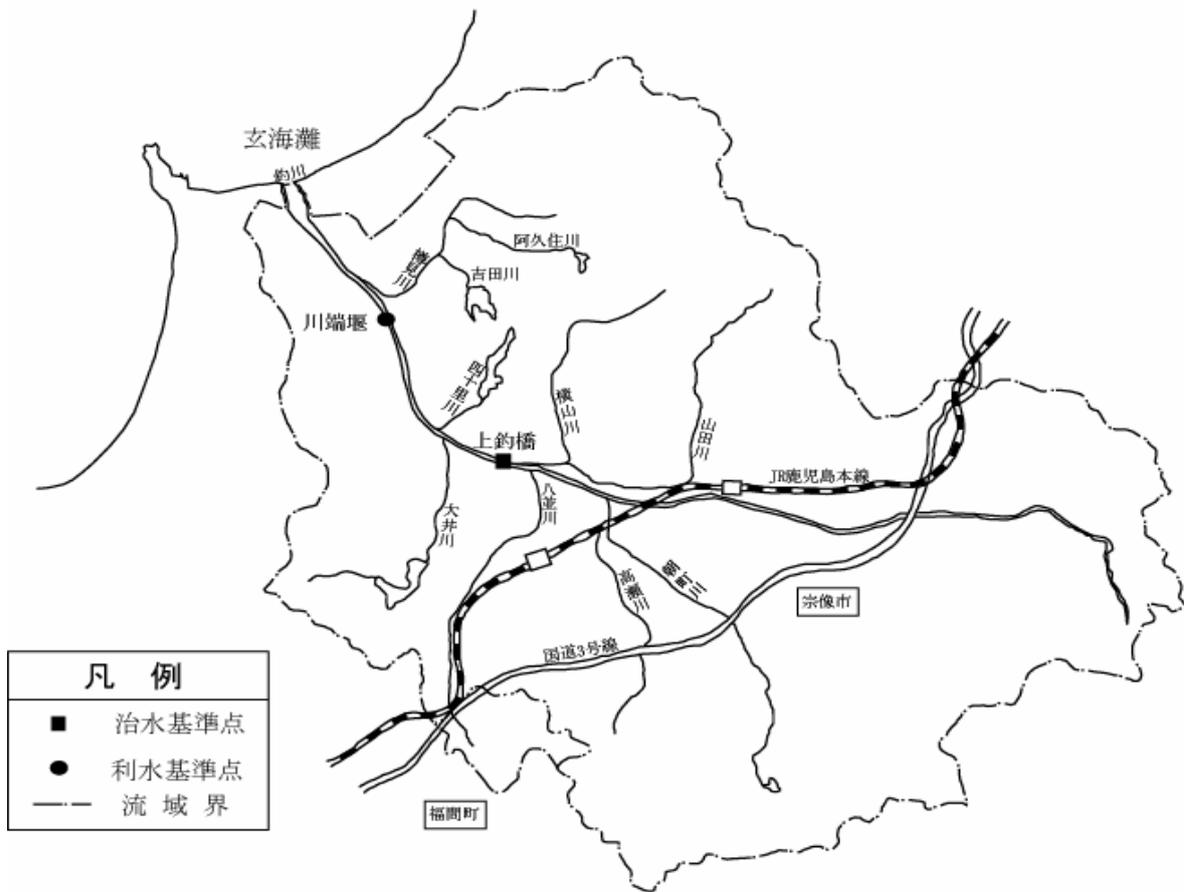
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

川端堰地点より上流においては、農業用水に係る既得水利があるほか、上水道用水として最大 $0.56 \text{ m}^3/\text{s}$ の許可水利がある。

川端堰地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、本地点を含めた下流における水利がないことを踏まえ、動植物の生息・生育等を考慮し、概ね $0.5 \text{ m}^3/\text{s}$ とする。

釣川水系参考図

位置図



釣川流域図